

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	22-009	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>Prevalence, co-morbidities, and in-hospital mortality of patients hospitalized with alcohol-associated hepatitis in the United States from 2015 to 2019</p> <p>2015年から2019年の米国におけるアルコール関連肝炎入院患者の有病率、併存症、院内死亡率</p>		
執筆者		
Marlowe N, Lam D, Krebs W, Lin W, Liangpunsakul S.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2022 Aug;46(8):1472-1481. doi: 10.1111/acer.14896.		
キーワード	PMID	
アルコール関連肝炎、院内死亡率、有病率	35778777	
要 旨		
<p>目的：本研究の目的は、米国におけるアルコール関連肝炎（AH）入院患者のヘルスケアの利用、死亡率、入院期間の最新の傾向を明らかにすることである。</p> <p>方法：適切な国際疾病分類（ICD）コードを用いて、入手可能な全米入院情報抽出データベース（NIS）（2015年から2019年）に基づいた米国におけるAH入院患者の最近の入院総数や入院期間、併存症、死亡率などを調査した。退院時加重変数（DISCWT）に基づいた全米規模の推計値としてデータを報告した。死亡率に関連する因子を決定するためにロジスティック回帰分析を用いた。</p> <p>結果：AH患者の入院総数が2015年の110,135人から2019年の136,620人に増加しており、これは総入院数10万人あたり386人、米国人人口10万人あたり42人（2019年米国総人口は328万人）に相当することが確認された。患者は平均48歳で、ほとんどが白人および男性であった。平均在院日数は約6日で、全体の院内死亡率は2015年の4.19%から2019年には3.86%に減少した（傾向p値<0.0001）。5年の研究期間中、入院中にAH患者の59万2,885人が生存、2万4,795人が死亡した。死亡した患者は高齢で、入院期間も長く、入院中の費用も高額であった。死亡率は、門脈圧亢進症、急性腎不全、肝硬変、敗血症の合併症を有する患者で有意に高かった。</p> <p>結論：本研究において、入院AH患者数とそれに伴う医療費および利用率の有意な増加がみられた。本結果は、入院中のAH患者に対する有効な治療法を特定することが、依然として満たされておらず、緊急の課題であることを明確に示している。</p>		